

ラ・テ 12月23日(水) 4時解禁
新聞 12月23日(水) 朝刊解禁

報道関係者 各位

平成 27 年 12 月 23 日

【照会先】

医薬・生活衛生局血液対策課

課 長 : 武井 貞治 (内線 2900)

課 長 補 佐 : 清水 正順 (内線 2909)

献血推進係長 : 畔上 大輔 (内線 2908)

(代表電話) 03 (5253) 1111

(直通電話) 03 (3595) 2395

平成 28 年「はたちの献血」キャンペーンについてお知らせします

厚生労働省では、日本赤十字社及び都道府県と協力して、献血者が減少しがちな冬期の輸血用血液の確保と医療機関への安定的な血液製剤の供給を行うため、「はたちの献血」キャンペーン(平成 28 年 1 月 1 日～2 月 29 日)を実施します。成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、広く国民各層に献血に関する理解と協力をお願いし、全国でキャンペーンを展開していきます。

1. 今年の「はたちの献血キャンペーン」標語

『二十歳が救う 命のリレー』

2. 主催： 厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

後援： 一般社団法人日本民間放送連盟

一般社団法人日本民営鉄道協会

一般社団法人日本コミュニティ放送協会

3. 厚生労働省が実施する主な取組

(1) キャンペーン用ポスターの配布

官公庁、地方公共団体、全国の血液センター、献血ルーム等に幅広く配布し、国民に向けての広報啓発を行います。

(2) 省内献血の実施

省内献血の日時：平成 28 年 1 月 4 日(月)、5 日(火)



(キャンペーン用ポスター)

4. 日本赤十字社が実施する主な取組

- はたちの献血キャンペーンキャラクターの決定等
別添(日本赤十字社作成プレスリリース) 参照

平成28年はたちの献血キャンペーン「キミに救えるいのち」

TVCM『キミに救えるいのち』篇、平成28年1月1日から全国で放映開始
ひょうじょう

「氷上の天才」は「“表情”の天才」！？

羽生結弦選手の熱い眼差しに注目！！

TVCM楽曲はナオト・インティライミさん書き下ろしの「未来へ」

平成27年12月23日



日本赤十字社(東京都港区)は、平成28年はたちの献血キャンペーン(主催:厚生労働省・都道府県・日本赤十字社)を1月1日から2月29日までの2カ月にわたり全国で展開します。

はたちの献血キャンペーンは、献血者が減少しがちな冬期の輸血用血液の確保と、医療機関へ安定的に血液製剤を供給するために、新たに成人を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に献血に対する理解と協力を求めることを目的としています。

前年に続き、フィギュアスケート選手で、2014年ソチオリンピック金メダリストの羽生結弦選手が2年連続キャンペーンキャラクターに就任。羽生選手が、同世代を中心に、献血への協力と参加を呼びかけます。

また、TVCM楽曲はシンガーソングライターのナオト・インティライミさんが担当。書き下ろしの楽曲「未来へ」は、「逆境の中、闘ってる方々の明日の一步が少しでも軽くなったら嬉しい」という想いを込めた楽曲となっています。

<はたちの献血キャンペーンメッセージ>

■キャンペーンメッセージは、「キミに救えるいのち」

「献血は自分がやらなくても誰かがやってくれる」と思われている方も多いと思います。この「誰かがやってくれる」という意識を「自分にも救えるいのちがあるんだ」「自分がやらなくてはい」という意識に少しでも変えることが出来れば、献血に協力してくださる方はきっと増えていく。「キミに救えるいのち」というキャンペーンメッセージにはそんな思いが込められています。

【本件に関する報道関係の皆様のお問い合わせ】

株式会社サニーサイドアップ 担当:小松原 携帯(090-6533-4378) / 武内
TEL: 03-6894-3200 / FAX: 03-5413-3050

<平成28年はたちの献血キャンペーン概要>

- 期 間：平成28年1月1日(金)から2月29日(月)
- 主 催：厚生労働省・都道府県・日本赤十字社
- 展開内容：

(1)TV、ラジオ、劇場CMの放映等

(2)キャンペーンサイト(PCサイト/スマホサイト)の開設

キャンペーンサイト限定公開のCMメイキング動画を公開

PC・スマホサイト：<http://ken-love.jp/hatachi/>

※平成27年12月25日(金)公開予定です。

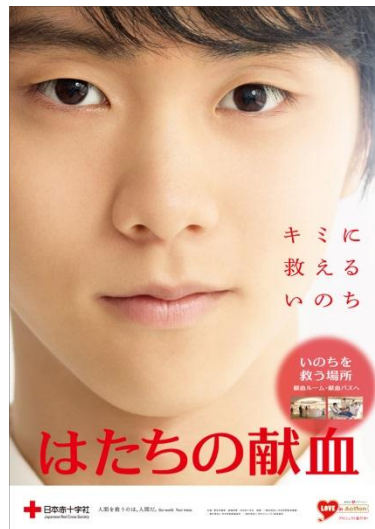
(3)初回献血者へのオリジナルグッズプレゼント

平成28年1月1日(金)から2月29日(月)までのキャンペーン期間中に、全国の献血会場にて初めて献血される方限定で先着50,000名様にオリジナルクリアファイルをプレゼント。

※期間中でもなくなり次第終了とさせていただきます。

※医療機関の血液需要に応じて、200mL全血献血をお断りする場合がございます。

※献血にお申込みいただいても、当日の体調などにより献血にご協力いただけない場合がございます。以上、予めご了承ください。



メインビジュアル



羽生選手 オリジナルクリアファイル

<キャンペーンキャラクター紹介>

羽生結弦(はにゅう ゆづる)

1994年12月7日生まれ、宮城県仙台市出身。日本のフィギュアスケート選手(男子シングル)。4歳からフィギュアスケートを始め、ジュニア時代には日本人男子として4人目の世界ジュニアチャンピオンに輝く。シニア移行後、2014年ソチオリンピック金メダリスト。2013年・2014年・2015年GPファイナル優勝など実績多数。平成27年から2年続けてのはたちの献血キャンペーンキャラクターに就任。

<キャンペーンソング紹介>

「未来へ」／作詞・作曲：ナオト・インティライミ

<ナオト・インティライミさんからのメッセージ>

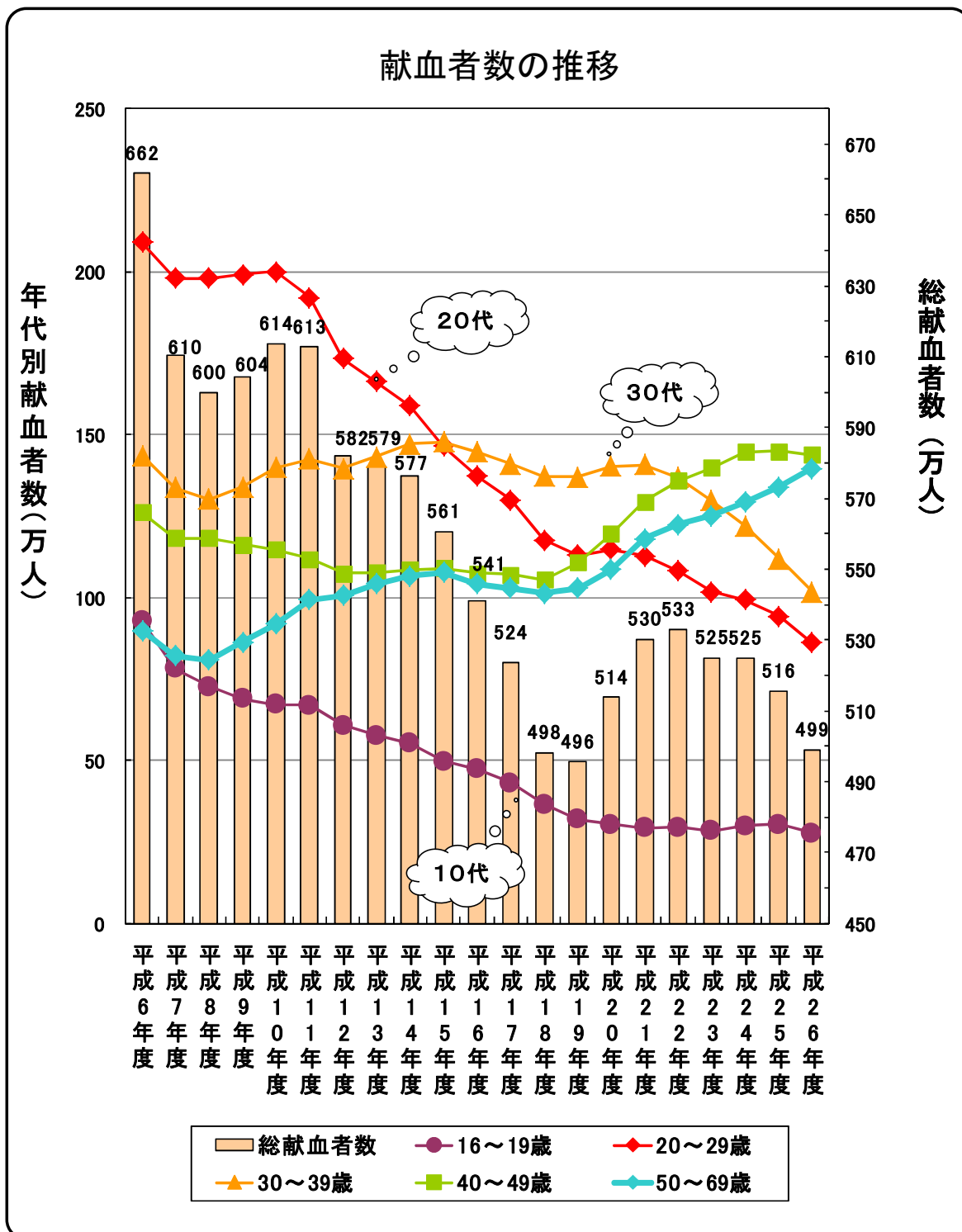
今は苦しくて思い通りにいかなくとも、あきらめない気持ちを持って自分を信じて、輝く未来を想像してみる。。逆境の中、闘ってる方々の明日の一步が少しでも軽くなったら嬉しいです。

ナオト・インティライミ

8月15日 三重県生まれ、千葉県育ち。世界一周42カ国を一人で渡り歩き、各地でLIVEを行い、世界の音楽と文化を体感。『インティライミ』とは南米インカの言葉で『太陽の祭り』を意味する。2010年にメジャーデビュー。2012年、NHK紅白歌合戦に初出場を果たす。2015年6月には初のベストアルバム「THE BEST!」を発売し、20万枚を超える大ヒットを記録！そして、12月23日には自身初となる大阪、京セラドームでのLIVEも決定!!!2016年1月からは初のミュージカルで主演も決定。1月27日には16枚目のシングルとなる「未来へ」をリリース予定。

【献血者数の現状】

- ・ 平成 19 年度に過去最低の延べ約 496 万人だった献血者は、平成 22 年度まで増加していましたが、平成 26 年度は前年度の延べ約 516 万人より減少し、延べ約 499 万人でした。
- ・ 平成 24・25 年度では 10 代の献血者は増加しましたが、平成 26 年度は再び減少しました。20 代、30 代における献血者は依然として減少傾向となっております。



献血推進に係る新たな中期目標 ～献血推進2020～

1. 背景及び目的

病気やけがの治療等に必要な血液は、国民の善意による献血によって支えられている。献血者は昭和 60 年度に延べ約 876 万人を数えたが、その後減少を続けて平成 19 年度には約 496 万人まで低下した。

国は、平成 17 年度から「献血構造改革」、平成 22 年度から「献血推進 2014」といった 5 カ年の献血推進目標を策定して献血者確保のための取り組みを行ってきた。

平成 25 年度の献血者数は約 516 万人であるが、20 代、30 代の献血率の減少が続いている。日本赤十字社の血液需給将来推計シミュレーションでは、平成 25 年の献血率（献血可能人口の 6.0%）のまま、少子高齢化が進んでいった場合、血液需要がピークとなる 2027（平成 39）年に、献血者約 85 万人分の血液が不足すると推計された。

こうした状況を踏まえ、将来の血液の安定供給体制を確保するため、新たに平成 27 年度から平成 32（2020）年度までの 6 年間の中期目標を設定し、献血の推進を図っていくこととする。

2. 平成 32（2020）年度までの達成目標

項目	目標	H25 年度 実績値	H26 年度 実績値	H32 年度 目標値
若年層の献血者数の増加	10 代(注 1)の献血率を増加させる。	6.3%	5.7%	7.0%
	20 代の献血率を増加させる。	7.2%	6.7%	8.1%
	30 代の献血率を増加させる。	6.7%	6.3%	7.6%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を増加させる。	50,712 社	52,084 社	60,000 社
複数回献血の増加	複数回献血者（年間）を増加させる。	996,684 人	978,299 人	1,200,000 人
献血の周知度の上昇	献血セミナーの実施回数（年間）を増加させる。	1,128 回	1,337 回	1,600 回

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下の事項について重点的に取り組んでいくこととする。

(1) 献血の普及啓発

広く国民に献血の意義を理解し、献血を行ってもらうため、効果的な普及啓発を促進する。

(2) 若年層対策の強化

① 10代への働きかけ

献血への理解を深めてもらうことにより、初めての献血を安心して行っていただくため、日本赤十字社が実施する「献血セミナー」などの積極的な活用を推進する。

② 20代・30代への働きかけ

20代・30代は、リピータードナーにならずドロップアウトする方が多いため、献血を体験した方が、長期にわたり複数回献血に協力してもらえるように普及啓発、環境整備に取り組む。

また、企業などへの働きかけを一層強化し集団献血を行うことにより、安定的な献血者の確保を図る。

(3) 安心・安全で心の充足感が得られる環境の整備

献血は相互扶助と博愛精神による自発的な行為であり、献血者一人一人の心の充足感が活動の大きな柱となっている。

献血に協力いただく方々が、より安心・安全に献血できるとともに、心の充足感を得られ継続して献血いただける環境整備を図る。